

題名	私達の生活を支える「税金」
学校名	東海大付属福岡高等学校
学年	18
氏名	田口 心暖
たぐち	こころあ

私達の生活の中で、当たり前のように存在しているものの一つに「税金」があります。お店で買い物をするときに支払う消費税や、社会人になれば給料から引かれる所得税など、税金は身近な所で関わっています。しかし正直な所、私は税金について詳しく知りません。ニュースで「増税」や「収入不足」といった言葉を聞いても、私には関係のない大人の話だと思っています。ですが調べると、税金は私達が安心して暮らすために欠かせない仕組みだと言う事が分かりました。

まず、税金は国や地方自治体の収入の大半を占めています。そのお金は道路や橋の整備、学校や病院の運営、警察や消防の活動などに使われています。つまり、私達が普段安心して通学したり、病気の時に医療を受けられたりするのは、税金のおかげなのです。特に教育や医療の場面では、税金によって多くの人が平等に受けられる仕組みが成り立っています。公立高校が授業を受けたり校舎を利用し

「税に関する高校生」の作文「原稿用紙

たり出来るのも税金のおかげだと思うと、税金
 はとても身近な存在だと感じます。
 一方で、税金には不満や疑問もあります。
 例えば、消費税が上がると私達の生活に直接
 影響があります。お小遣いでお菓子を買う時
 ども「前より高いな」と感じる事があり、税
 金を負担している事を実感します。また、二
 コースでは「税金の無駄遣い」と言う言葉も
 耳にします。確かに、せっかく国民から集め
 たお金が、必要のない事に使われちゃうの
 は納得できません。そう考えると、税金を集
 める側である国や自治体には、もっと意味の
 ある使い方をししてほしいと思います。
 将来、私も働くようになれば、今よりずっ
 と多い税金を納める事になります。正直、給
 料から大きな額が引かれると考えると不安も
 あります。それは社会の一員としての責任
 でもあるのだと思います。自分だけの利益で
 はなく、社会全体のためにお金を出し合うと
 言う仕組みが税金です。その考え方は「助け

合い」に近いもので、もし自分が困ったとき
には税金に支えられる側になるかもしれない
ん。

これから少子高齢化が進む中で、働く世代
にかかる税の負担はもっと大きくなると言わ
れています。だからこそ、高校生の私達も税
金について「知らない」ままでは無
く、しっかり税金の仕組みを学び、政治や選
挙にも関心を持ち、自分の意見を持つよう
になりたいです。そして将来「払わされたい
る」のではなく「社会を支えている」と思え
るようになりたいです。税金は私達にとつて
負担でもあります。それ以上に社会を支え
る大切な柱です。これから税金について理
解を深め、責任ある国民の一人として関わ
ていきたいと思えます。